

平成19年3月期 決算説明会



スターホールディングス株式会社

STAR HOLDINGS CO.,LTD

<http://www.star-ir.co.jp>

2007年5月

目次

業績概況	1
収益の推移と内訳	2
資産の推移と内訳	3
費用の推移と内訳	4
部門別業績	
商品	5・6
為替	7・8
証券	9
「コスト適正化対策」について	10
連結子会社の会社分割	11・12
今後の展開	13

※資料中の財務データについて

当社は2004年12月1日にスターフューチャーズ証券株式会社の株式移転により、設立された持株会社となります。本資料の財務データは、以下の通りとなります。

- ・2004年3月期中間以前
⇒ スターフューチャーズ証券株式会社「単独」
- ・2004年3月期通期から2005年3月期中間まで
⇒ スターフューチャーズ証券株式会社「連結」
- ・2005年3月期通期以降
⇒ スターホールディングス株式会社「連結」

2005年3月期中間以前の財務データは、当期のそれとは連続性が高いものの、完全に連続しているものではありません。従いまして、2005年3月期中間以前の財務データは、あくまでも経年比較のための参考データとなりますことをご了承ください。

■ 業績概況

スターホールディングス株式会社
STAR HOLDINGS CO.,LTD

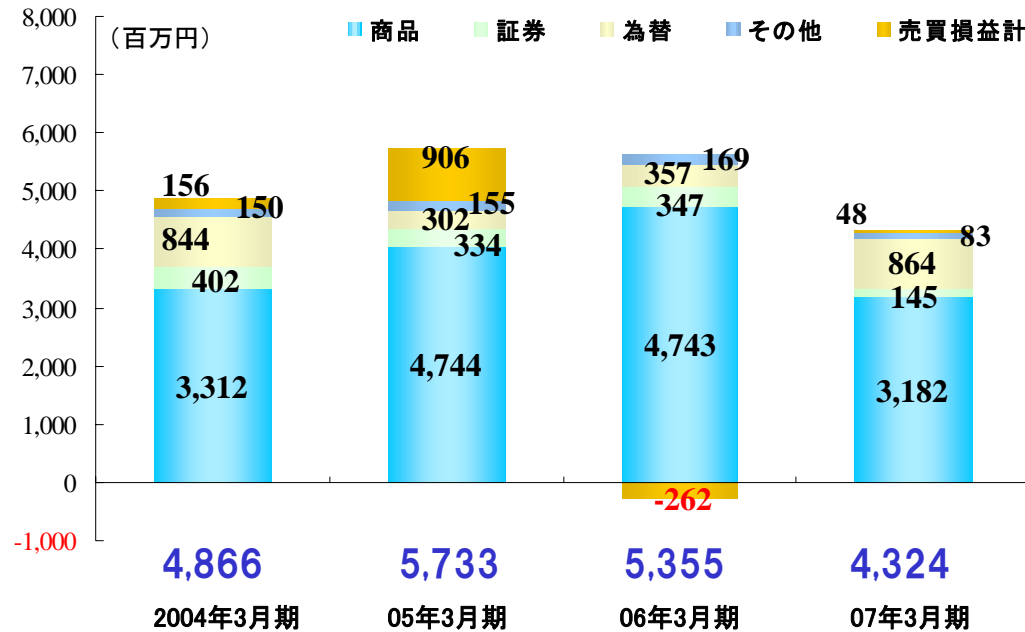
為替収益が大幅増、商品・証券収益が減少

単位:百万円

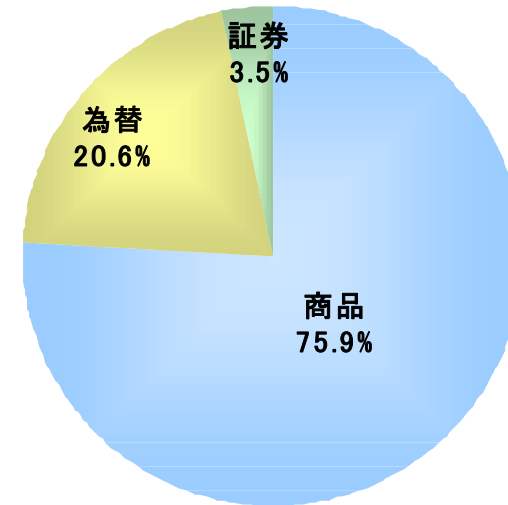
	07年3月期 (連結)	06年3月期 (連結)	前年同期比
営業収益	4,324	5,355	△19.3%
受取手数料	4,192	5,449	△ 23.1%
(商品業務)	3,182	4,743	△ 32.9%
(為替業務)	864	357	141.5%
(証券業務)	145	347	△ 58.1%
売買損益	48	△262	—
その他	83	169	△50.7%
営業費用	4,880	5,678	△14.1%
営業利益	△556	△323	—
経常利益	△517	△272	—

■ 収益の推移と内訳

□ 収益の推移



□ 当期の連結受取手数料事業別内訳



■ 商品業務 ⇒ 主力である農産物・石油市場取引での受取手数料収益減少

農産物市場 692百万円(前年同期比△38.3%)、石油市場 400百万円(同△68.7%)

■ 為替業務 ⇒ 「くりっく365」取扱開始による収益増加

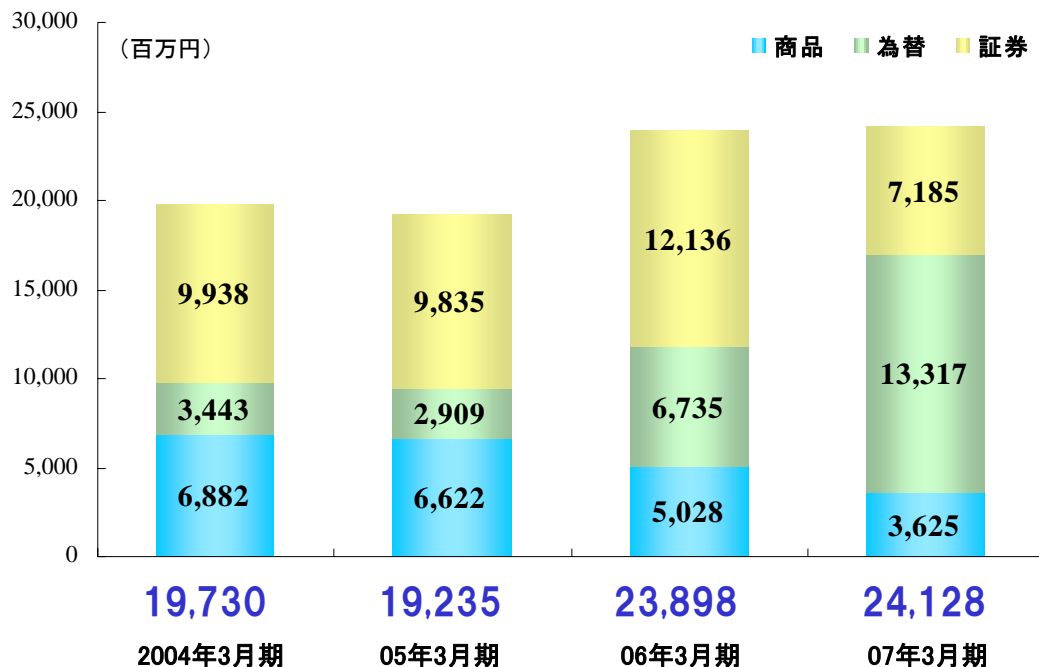
2006年3月期 受取手数料 357百万円 ⇒ 2007年3月期 受取手数料 864百万円(前年同期比141.5%増)

■ 証券業務 ⇒ 全取引が収益減少

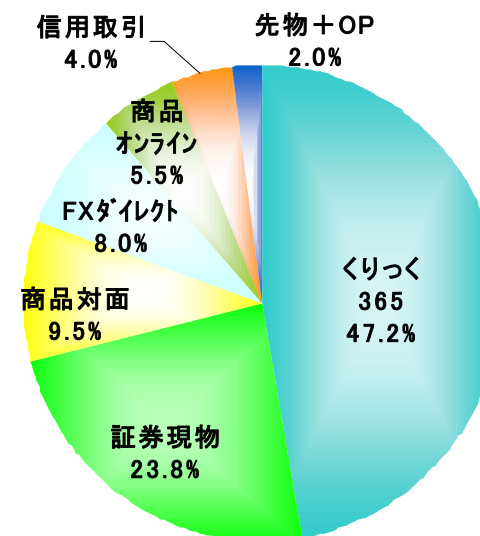
2006年3月期 受取手数料 347百万円 ⇒ 2007年3月期 受取手数料 145百万円(前年同期比58.1%減)

■ 資産の推移と内訳

□ 預り資産の推移



□ 当期の口座別預り資産内訳



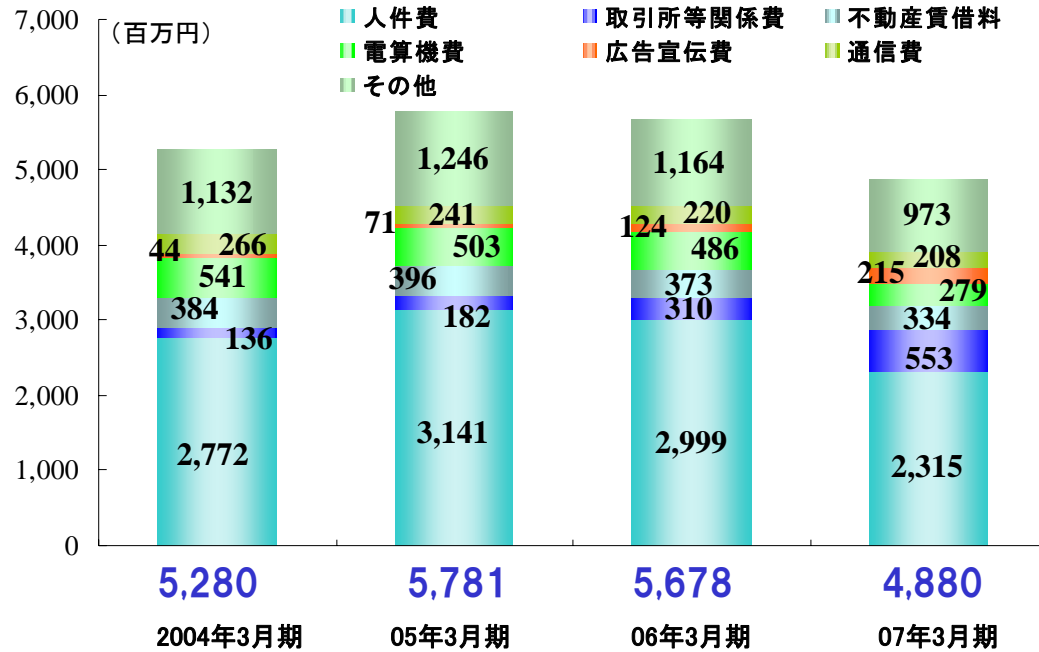
■ くりっく365(為替オンライン)の資産が増加

預り資産の前年同期比 ⇒ 為替123.3%増、証券12.0%減、商品30.8%減となり、全体としては1.0%増。

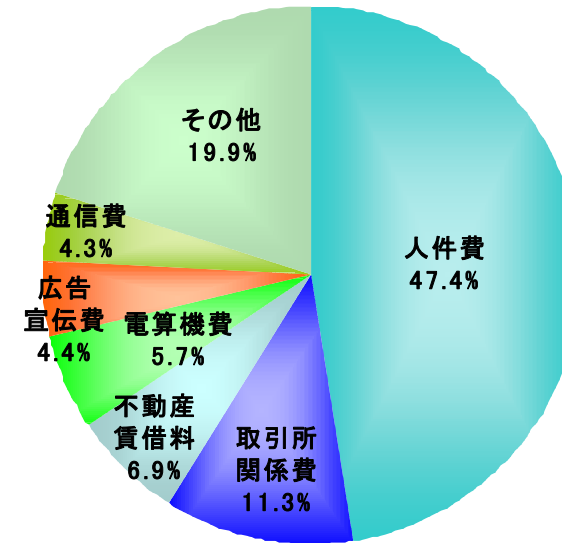
- ・為替業務の増加要因 ⇒ 「くりっく365」の預り資産の大幅増加(当期末は11,393百万円)
- ・証券業務の減少要因 ⇒ 2006年5月に発生した世界同時株安などの影響により、顧客資産が減少
- ・商品業務の減少要因 ⇒ 貴金属や石油などの国際商品価格の乱高下により、顧客資産が著しく減少

■ 費用の推移と内訳

□ 費用の推移と内訳



□ 当期連結費用の内訳



■ 増加⇒取引所等関係費、広告宣伝費

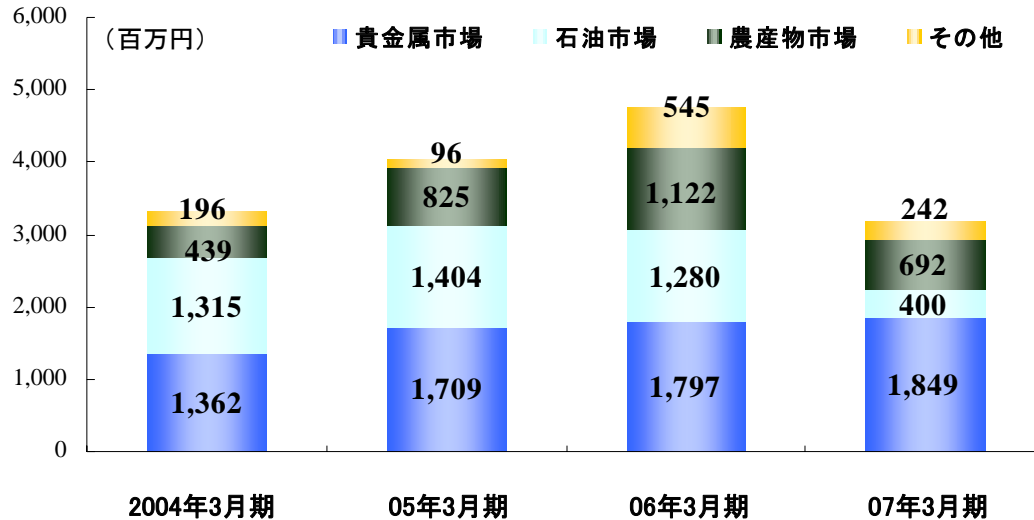
- ・取引所等関係費 2006年3月 310百万円 ⇒ 2007年3月 553百万円(前期比+70.1%)
 - ・広告宣伝費 2006年3月 124百万円 ⇒ 2007年3月 215百万円(前年同期比+74.3%)
- ⇒「くりっく365」の取引拡大による取引所等関係費と広告宣伝費の増加

■ 減少⇒人件費、電算機費、不動産賃借料、通信費

人件費 △4.5% 電算機費 △3.5% 不動産賃借料 △5.6% 通信費 △8.5%

商品 業績概況

受取手数料の推移と内訳

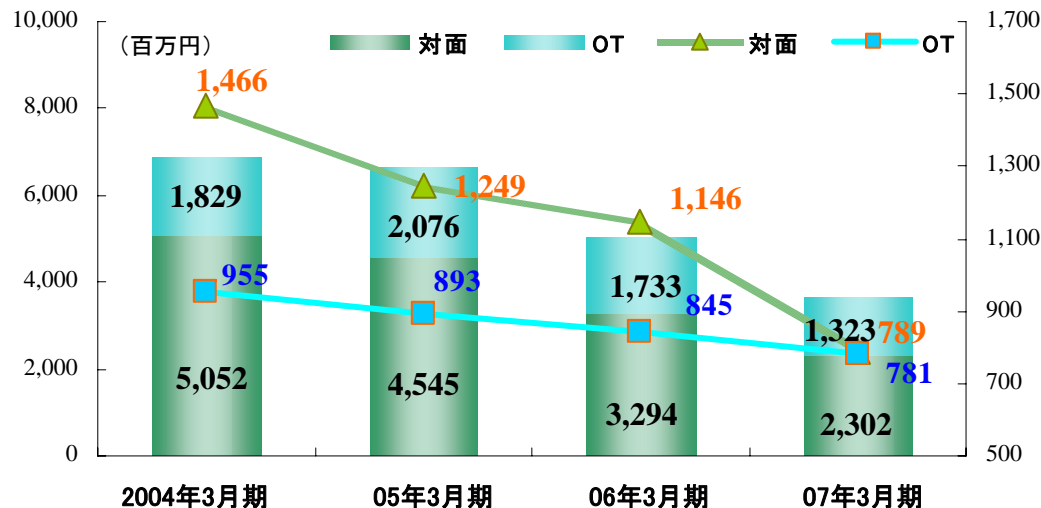


収益の状況(前年同期比、%)

貴金属市場	+2.9%
農産物市場	△38.3%
石油市場	△68.7%

石油と農産物が大幅に減少
貴金属は微増

預り資産と口座数の推移



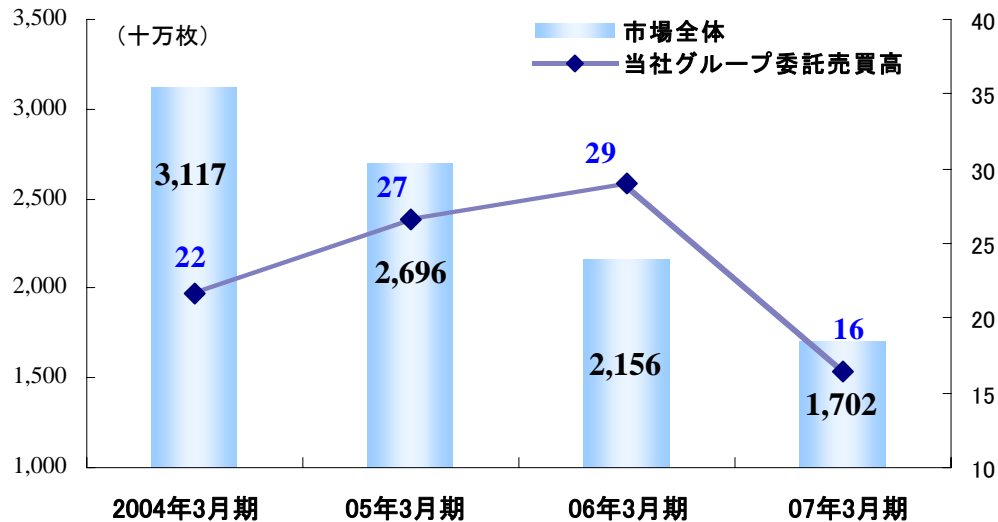
預り資産と口座数の状況(前年同期比、%)

	対面	OT
預り資産	△30.1%	△23.6%
口座数	△31.2%	△7.6%

預り資産と口座数が共に減少

商品サマリ

商品先物市場全体と当社グループ売買高比較



商品取引の売買高減少

・スターホールディングスグループ
⇒前年同期比で43.2%ダウン

・商品先物市場全体
⇒前年同期比で21.1%ダウン

◎市場全体の動き以上に売買高が減少。それに伴い収益も減少

世界的な商品取引所の再編の流れ

海外: CME・CBOT ⇒ 「CMEグループ」(H19年1~3月) **世界最大のデリバティブ取引所の誕生**

国内: 関西・福岡 ⇒ 「関西商品取引所」(H18年12月)

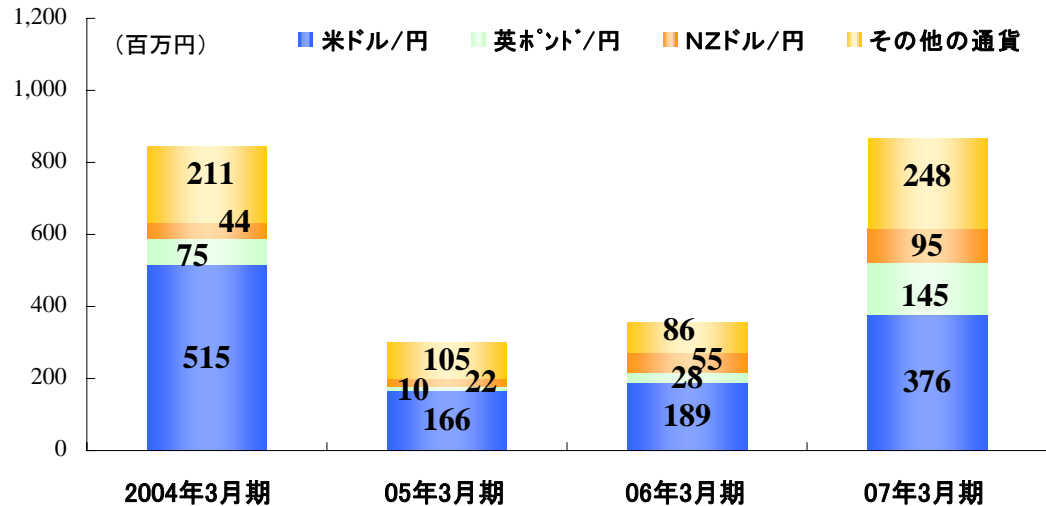
中部・大阪 ⇒ 「中部大阪商品取引所」(H19年1月) **国内の商品取引所は4取引所体制**

■改正商品取引所法(行為規制や純資産額規制比率の導入)の影響が表面化

商品業界全体が大きな変革期に入り、取引所の再編と取引員の淘汰が続く

為替 業績概況

収益の推移と内訳

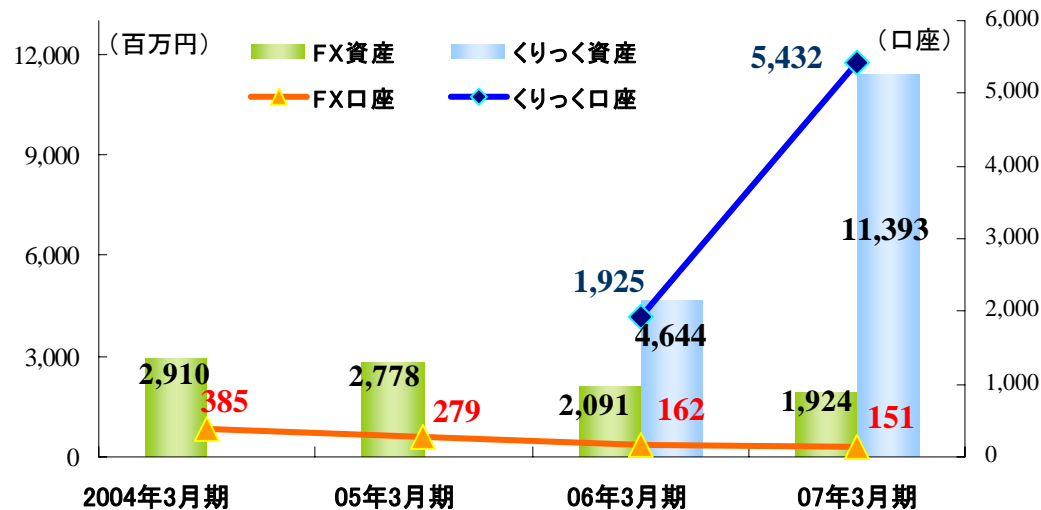


収益の状況 (前年同期比)

米ドル/円	+99.2%
英ポンド/円	+414.4%
NZドル/円	+73.3%
その他	+188.1%

くりっく365の拡大により、
全通貨が増加

預り資産と口座数の推移



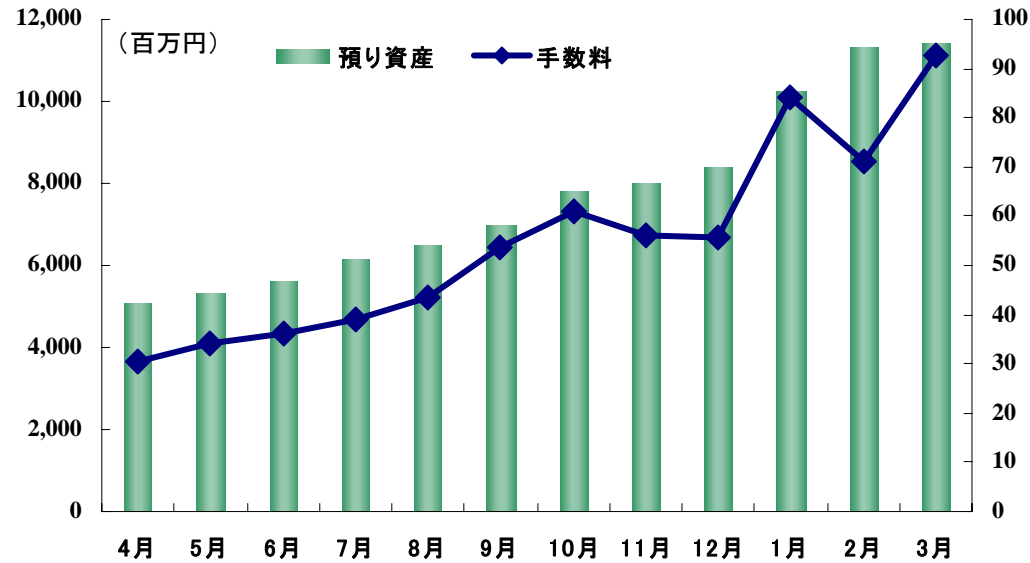
預り資産と口座数の状況 (前年同期比、%)

預り資産(全体)	+97.7%
口座数(全体)	+167.5%

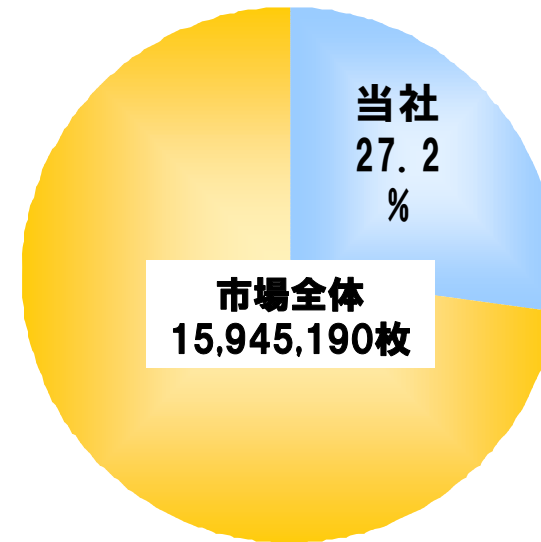
くりっく365の拡大により、預り資産、
口座数ともに大幅増

■ 為替サマリ

□ 「くりっく365」の手数料と預り資産の月次推移



□ 「くりっく365」市場シェア (累積売買高(枚数)ベース)



出所:東京金融先物取引所HP、当社データ

■ 市場シェアを拡大させるため、各媒体への広告展開とキャンペーンの実施、投資セミナーの開催を精力的に行う

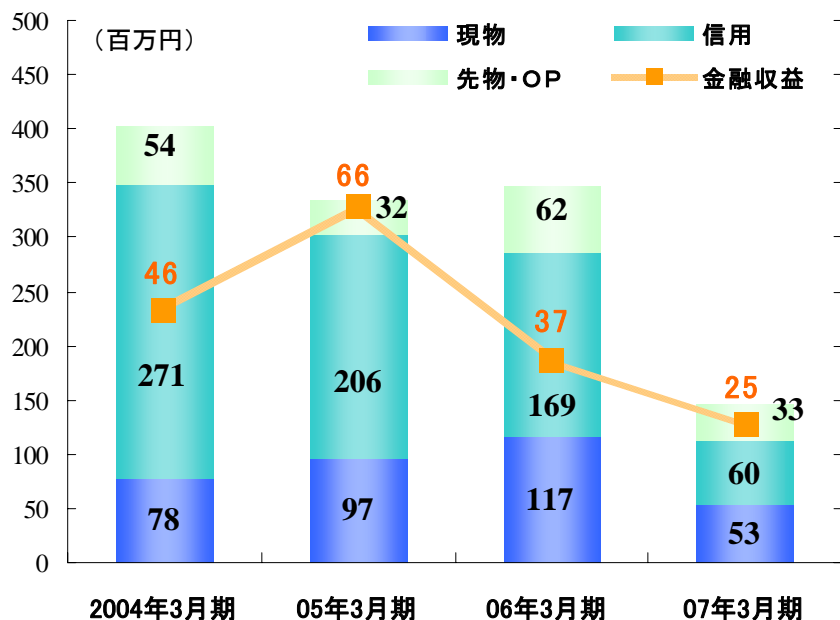
- ・手数料 2006年4月 30百万円 ⇒ 2007年3月 **92百万円**
- ・預り資産 2006年4月 5,052百万円 ⇒ 2007年3月 **11,393百万円**
- ・市場シェア 当期(2006年4月から2007年3月) **27.2%**

今後も継続して「くりっく365」のシェアと収益の拡大を図る

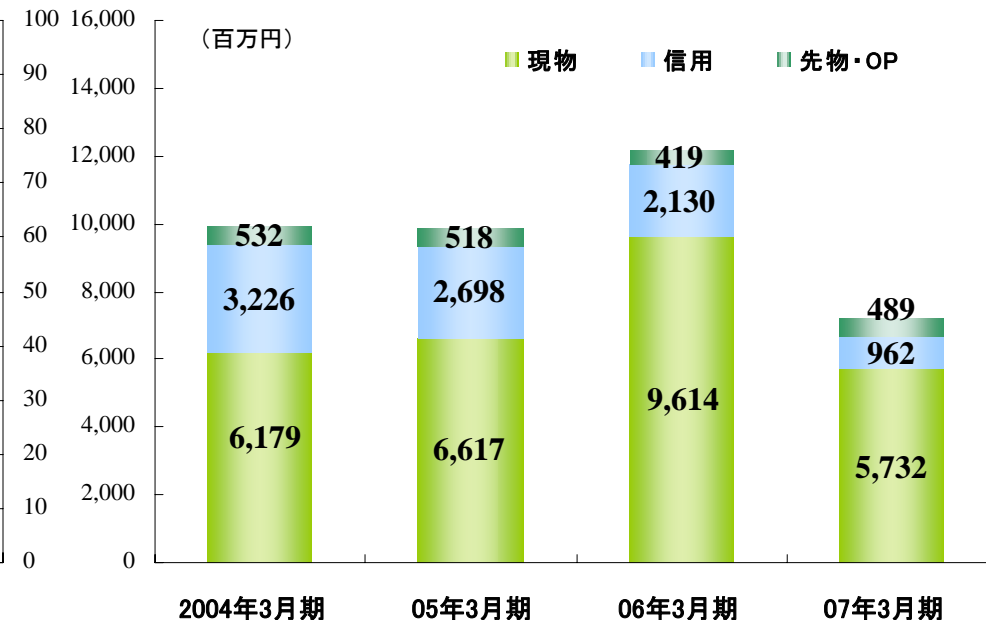
証券 業績概況

スターホールディングス株式会社
STAR HOLDINGS CO.,LTD

□ 収益の推移



□ 預り資産の推移



■ 収益、預り資産及び口座数の状況（前年同期比、％）

収益 全体：△55.6%

内訳：現金 △54.9% 信用 △64.6% 先物・OP △94.5% 金融収益 △31.8%

預り資産 全体：△40.9%

内訳：現金 △40.4% 信用 △54.8% 先物・OP 17.1%

■「コスト適正化対策」について

□「コスト適正化対策」

■実施事項(主要子会社スターアセット証券(株)にて実施)

I 役員人事

- ① 9名の取締役を5名に減員 ②取締役の役名の異動 ③役員報酬の返上(30%~100%の範囲)

II 効率的な支店の統廃合

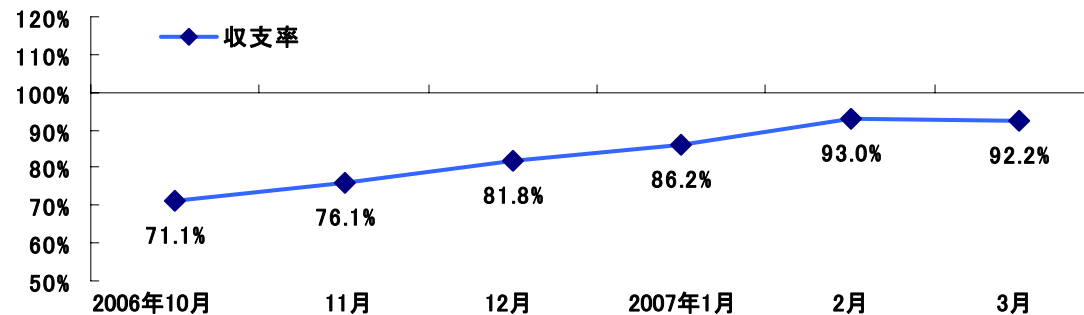
従来 8拠点⇒4拠点に集約

III 組織のスリム化

- ①従来 8部・3室体制⇒5部・1室体制へ集約 ②営業部門において「事業部制」を廃止

■実施後の状況(スターアセット証券)

受取手数料／営業費用＝収支率の改善



■ 連結子会社の会社分割について①

□ 会社分割の要旨

①会社分割の日程

スター為替株式会社設立日 平成19年4月2日(月)
分割 契約書承認取締役会 平成19年5月1日(火)
分割契約書調印 平成19年5月1日(火)
分割契約書承認株主総会 平成19年5月18日(金)
分割期日 平成19年7月1日(日)

②スター為替株式会社の概要

商号	スター為替株式会社
事業内容	金融先物取引業
設立年月日	平成19年4月2日
本店所在地	東京都千代田区
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 川崎 芳徳
資本金	315百万円
発行済株式総数	90千株
純資産	450百万円
総資産	450百万円
大株主及び持株比率	スターホールディングス株式会社100%

③役員の状態

氏名	現職
佐藤 不三夫	当社代表取締役社長 スターアセット証券株式会社取締役
川崎 芳徳	当社取締役 スター為替株式会社代表取締役社長
吉田 信明	当社取締役 スターアセット証券株式会社代表取締役専務
森 一	スターアセット証券株式会社執行役員渋谷支店長

④分割方式

スターアセット証券株式会社を分割会社とし、スター為替株式会社を承継会社とする吸収分割

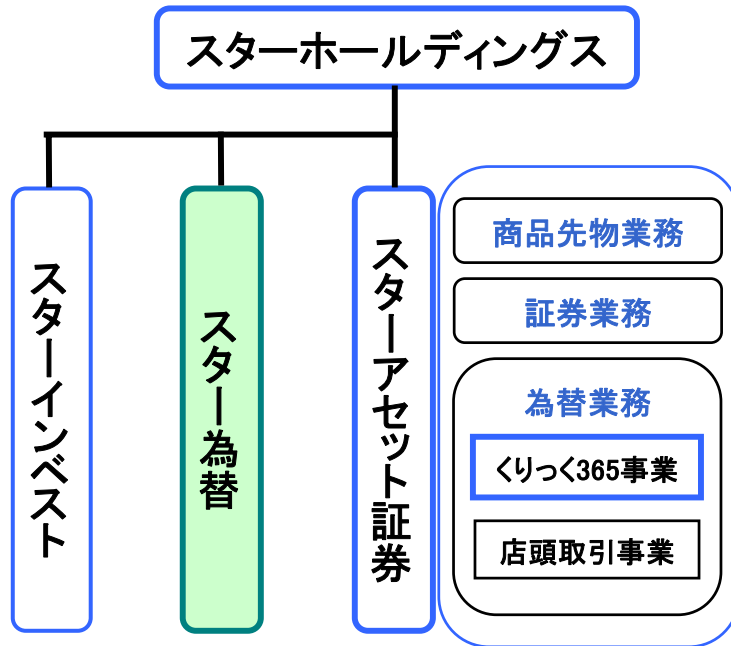
⑤会社分割の目的

今後も著しい成長が見込まれる外国為替証拠金取引市場において、ネット取引に特化した外国為替証拠金取引の専門会社を設立することにより、意思決定の迅速化を図り、激しい競争にさらされている同取引市場でのシェアを拡大し、収益の向上を実現する

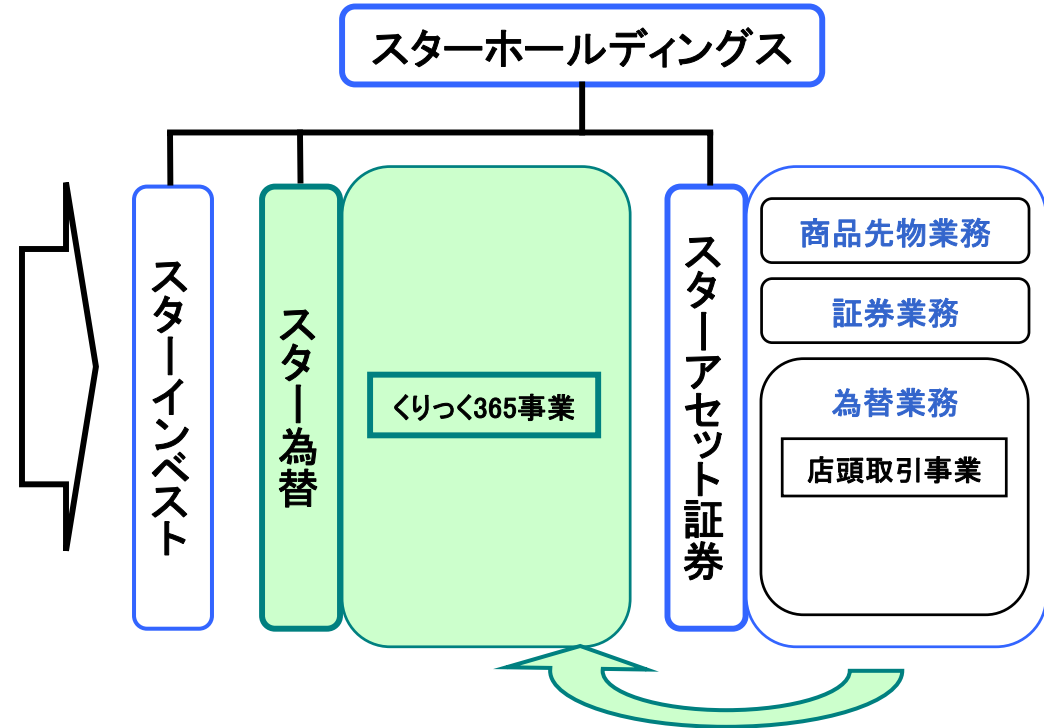
■ 連結子会社の会社分割について②

□ 会社分割のイメージ図

平成19年6月30日まで



平成19年7月1日(予定※)以降



※スター為替株が金融先物取引業の登録を受けることを前提としております。

分社化し、意思決定の迅速化を図ることにより、くりっく365取引市場でのシェアを拡大

■ グループ概要

スターホールディングス株式会社
STAR HOLDINGS CO.,LTD



金融フィールドをコアとして環境変化にフレキシブルかつスピーディーに対応